

再度の住民投票やめよ

大阪市議会本会議 瀬戸団長が代表質問

1日の大阪市議会本会議で日本共産党大阪市議会議員団の瀬戸一正団長が代表質問に立ちました。吉村洋文市長に対し、大阪市を廃止して「特別区」に再編する「大阪都」構想で2度目の住民投票を行うこととは、2015年の住民投票での否決という市民の審判を踏みにじるものであり、やめるべきだと強調。「特別区」では市民サービス低下は避けられないなど「都」構想は百害あって一利なし」と批判し、市民の暮らし、福祉・教育を最優先の市政への転換を主張しました。

前回の結果を尊重すべきだ

吉村市長が「住民投票の結果は尊重するが、「都」構想見直しと再挑戦を選挙公約にして選ばれたのだから、再度の住民投票は政治家として当然」と強弁していること

取り引きするものだ」と批判しました。

さらに「基本議決」は『今のままでいい』という市民多数の選択肢を奪う、最悪の民主主義破壊だ」と指摘しました。

同時に瀬戸氏は、「基本議決」への賛成は、大阪市を廃止する『都』構



代表質問に立つ瀬戸市議団長
＝1日、大阪市議会本会議場

住民サービス維持できない

瀬戸氏は、「特別区」は消防、下水、都市計画、産業振興などの事務は府に引き上げられ、身近な自らの区や街のことも決められないと強調。財政的には固定資産税や

府議会で決められるなど、「半人前の自治体だ」と述べました。

村市長や松井知事が、「カジノの面積や入場回数などの規制を厳しくすることはIR事業者の投資意欲を損なう」として、過度な規制を設けないよう政府に要望する考えを示していることについて、「ギャンブル依存症を減らすと言いつつ、実際にやろうとしていることは、規制を緩め

福祉・教育優先する市政へ

法人市民税など普通の市町村がもつ自主財源すら別区」と府の間の配分も

カジノ誘致で依存症広げる

瀬戸氏は、カジノを核とする統合型リゾート（IR）について質問。吉

て依存症を広げることではないか」と迫りました。

「大阪経済のためにも、IR誘致は断じてやめてはならない」と力説しました。

「市民がいま求めているのは制度いじりではなく、市民の切実な願いにこたえる市政だ」と瀬戸氏は述べ、公立保育所の充実と認可保育所の増設による待機児解消、小中学校の給食費無償化の実現、教員の確保はじめ福祉・教育を最優先する市政への道を示しました。

この中で瀬戸氏は、国民健康保険(国保)の都道府県単位化に伴い、松井

また3月末に閉院が迫った住吉市民病院についても質問しました。もともこの現地で替え計画は、小児周産期医療に特化した120床の病院であり、跡地に設置するの